

多核種除去設備（既設ALPS）C系 供給ポンプ2下部の堰内での水たまりの発見について

2018年7月26日

東京電力ホールディングス株式会社

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

TEPCO

概要

■ 概要

- 2018年7月10日、多核種除去設備（既設ALPS）C系の前処理設備（ステージ2）における供給ポンプ2下部に水たまり（20cm×30cm×1mm）を確認。なお、既設ALPSは停止中であった。
- 水たまりは、多核種除去設備建屋の堰内に留まっており、建屋外への流出はない。なお、水たまりの水のpHが11であったことから、ALPSの系統水の漏えいと推定。
- 水たまり上部の供給ポンプ2ドレン弁付近の保温材を取り外し、漏えい箇所を確認した結果、ドレン配管ねじ込み部と判明。シールテープを巻き直し、自己融着テープによる漏えい防止対策を実施して復旧。

時系列

■ 時系列

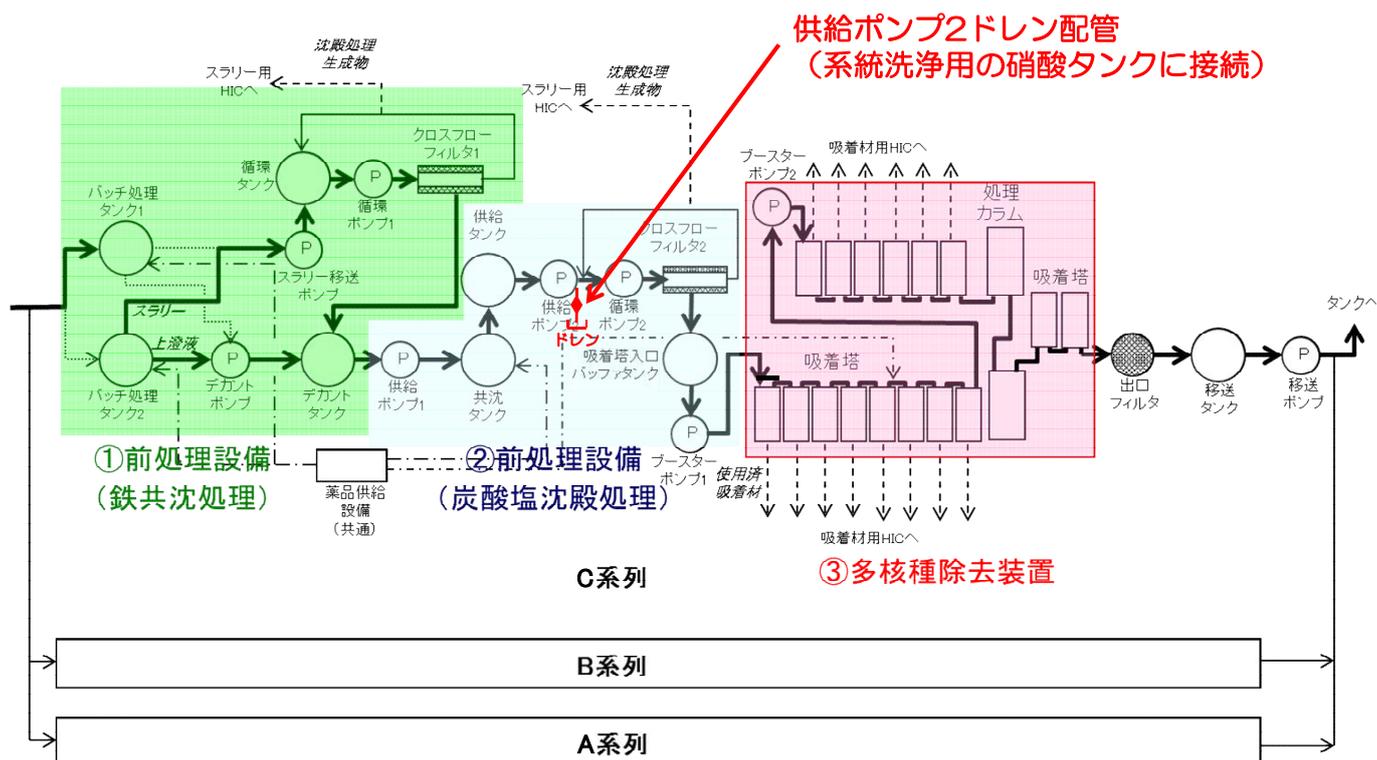
【7月10日】

- 11：14 既設ALPS C系前処理設備（ステージ2）供給ポンプ2下部付近に水たまりを発見。
水たまり範囲：20cm×30cm×1mm（堰内）
（参考）水たまりの水のpH：11、Cl：0%
現場調査の結果、水たまり上部の供給ポンプ2ドレン弁付近の保温材が濡れていたが、漏えい箇所は不明。
- 11：52 供給ポンプ2隔離操作実施。
- 12：45 水たまりの拭き取りを実施し、ドレン弁下部付近に受けパンを設置。

【7月11～13日】

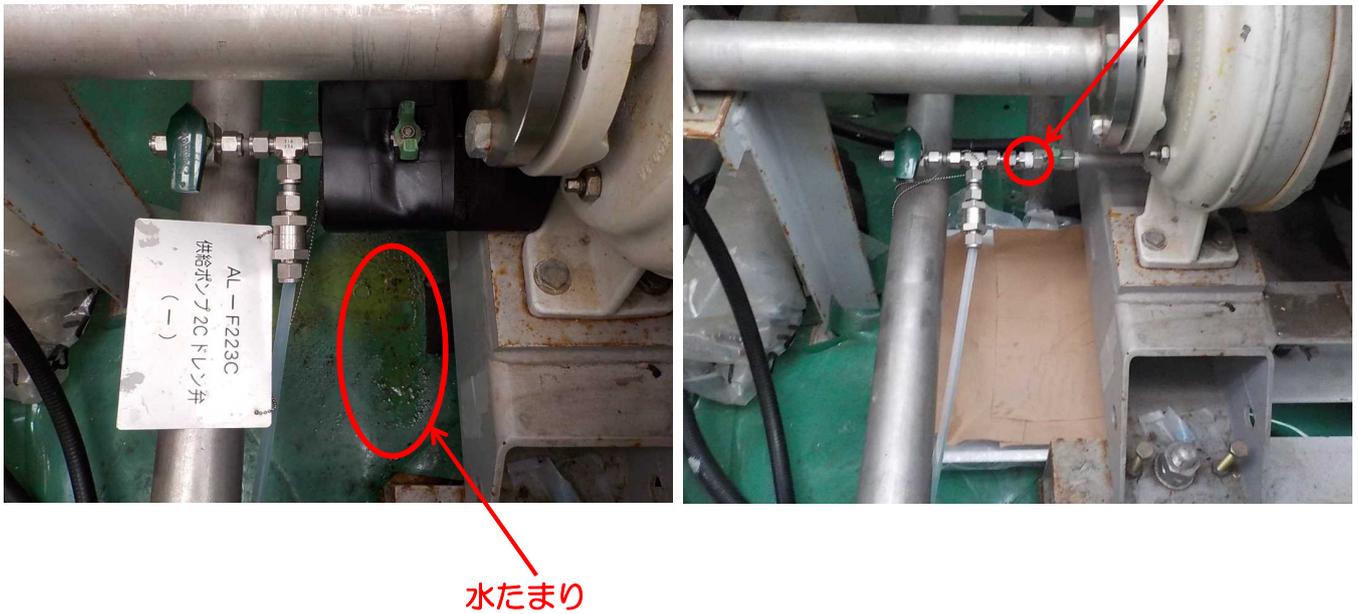
漏えい箇所を確認した結果、ドレン配管ねじ込み部であることを特定。そのため、シールテープの巻き直しを実施し、自己融着テープを巻き、復旧。

漏えい箇所



水たまりの状況

■水たまりの状況



TEPCO

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

4

対応と対策

■対応

シールテープの巻き直しを実施し、自己融着テープを巻いて復旧した。



■対策

供給ポンプ2については、A・B系についても自己融着テープにより漏えい防止を図ることとする。また、漏えいし難い構造への変更を検討していく。

TEPCO

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved. 無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

5